

○前計画期間における本市生涯学習推進計画の取組状況及び成果と課題

I 生涯学習推進体制の整備

1 全庁的な取り組みの充実

① 情報の一元化の推進

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
市広報への情報掲載	市長公室	市広報に各課の事業に関する情報を掲載。	○講座や事業の参加者アンケートでは「事業を何で知ったか」の問いには広報の割合が高い。市外からの参加者はフリーペーパーなどで知ったという参加者も多く、積極的に活用している。
生涯学習推進計画関連事業の一覧化	社会教育文化課	庁内関係部署で実施する事業内容の情報を共有し市全体として連携した事業を推進するため、年度毎に計画される各課の事業を調査し、市HPへ掲載。	○全庁的に生涯学習関連事業の把握ができるとともに、連携や類似事業の整理等がしやすくなった。 ●年度当初の調査のため実施期日など詳細な情報の記載が難しい
小・中学生向けの講座案内の配布	社会教育文化課	「カモンくんこどもニュース」の発行の際、関係課からの情報収集に努め集約して各学校に配布する。	○子育て支援課等他部署で実施する講座や催しの周知に努めた。 ●情報の充実とカモンくんこどもニュースに掲載をしたことのない各課への周知

② 情報交換及び講座等の検討

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
公民館運営審議会の開催	社会教育文化課	社会教育・中央公民館の主要事業等についての協議	○生涯学習事業の成果や課題などの情報交換、講座等の検討を行った。 ●社会教育委員の会議との役割分担が必要
大学まちづくり研究委託事業担当者連携会議(平成27年度で完了)	企画調整課	各課事業の情報交換を通して、情報の共有化を図るとともに家庭教育支援を推進する。	○平成25～27年、関係各課が情報交換を行いながら、公益大による家庭教育支援に関する調査研究を実施した(平成27年度で調査研究が完了)。 ○社会教育委員の会議で調査研究結果についての講義を実施。

2 生涯学習情報の提供と相談体制の充実

① 学習情報発信のあり方の検討

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
中央公民館のお知らせ カモンくんこどもニュースの発行 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	毎月1回程度情報誌を発行(カモンくんこどもニュース)し、各小中学校・コミュニティ振興会への配付を行う。	○地区担当・学校担当の社会教育指導員(5名体制)が訪問をし、情報発信、情報交換を行っている。 ●掲載情報の充実と関係課との連携
子どもとの交流 ～地域の青少年活動を通して～ の発行	社会教育文化課	市内の全コミュニティ振興会の子どもとの交流に関する事業の実施内容を冊子に編集し活動内容を紹介している。	○各コミュニティ振興会間で活動の参考にすることができる。各地区で活発に行われている活動を知る機会になっている。 ●発行部数が限られており、より多くの市民が目に見えるような工夫が必要。ホームページへの掲載など。
インターネット等の活用による情報発信	社会教育文化課	各講座の情報やカモンくんこどもニュース等のホームページ掲載、フェイスブックやローカル放送局の利用等を図り、積極的な情報発信を行う。	○カモンくんこどもニュースや各種講座の募集情報等のホームページ掲載や、フェイスブックによる情報発信を行った。
飛島の情報誌の発行	とびしま総合センター	コミュニティの情報発信手段として島内で行われた行事・事業等を写真入りで紹介する。	○「とびしま新聞」として、緑のふるさと協力隊・地域おこし協力隊が島内行事を島内に広く周知できることから、情報発信手段として発行してきた。 ●年2回の発行であるが、月1回で発行している島内行事予定の内容拡充により、内容が競合している。計画策定当初は2か月ごとの発行であった。

② 人材の活用と育成

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
市民生涯学習支援事業 生涯学習指導者登録制度 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	知の循環型社会の実現を目指し、人材の情報収集と提供を行うとともに市民自らが講座の企画運営を行うことで人材の育成を図る。	○市民自らが講座を企画し、講師として講座を実施。 ●生涯学習指導者登録について、講師等の紹介について相談を受けた場合に指導内容と相談者にニーズが一致しないケースが多く、活用が難しい。
ホール音響照明操作講習会 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	総合文化センターのホールの操作資格者を養成し活用を図る。	○多くの市民が総合文化センターのホールを活用し発表会や講演会などに活用をしている。
読み聞かせボランティアの養成講座 (子ども読書活動推進事業)	図書館	学校等で読み聞かせを行うボランティアの養成講座を開催している。	○「読み聞かせボランティア講座」は構成を工夫し、スキルの異なるボランティアにきめ細かく対応でき、小学校や各施設等での読み聞かせボランティアの育成に繋がった。 ●これまで図書館やボランティア活動に関わりが少なかった市民、世代に対して、活動内容を広くPRし、子どもの読書活動及び図書館活動への支援・協力者の拡大を図る。
手話教室 手話奉仕員の育成 (意思疎通支援事業)	福祉課	手話教室の開催により手話奉仕員の育成を図り、障がい者等の福祉の増進を図る。	○養成講座の受講者は減少傾向にあり、平成29年度以降20人を下回っている。ステップアップ講座受講者は14人となっている。 ●受講者数の減少
食生活改善推進員養成講習会開催 (栄養・食生活改善事業)	健康課	食生活改善推進員の養成と、研修会等の実施により食生活改善推進員の育成を図る。 H26年度より前年度養成講習会修了者を対象に研修会を実施し、育成事業の拡大を図る。	○養成研修会および前年度修了者対象にした研修会を実施し、推進員の育成と活動の継続の支援を実施した。 ●拡大ではなく、現状維持になっている。

③ 相談体制の充実

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
生涯学習サークルの情報チラシの発行 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	総合文化センター等利用している団体(サークル)のチラシで活動のPRを行い、希望者へ情報提供し、生涯学習団体(サークル)への加入の促進を行っている。	○各種サークルの入会希望者への情報を提供した。
サークル情報チラシの発行 (広報広聴活動推進事業)	市長公室	年1回市広報の折り込みチラシとして市内で活動している各種団体(サークル)の情報提供を行う。	○広報紙には原則掲載できない話題(継続的に開催される講座、継続して活動するサークル会員募集など)を年1回まとめて掲載しているもの。広報紙への上記記事の掲載希望の抑制効果はあるものと認識している。 ●チラシ掲載により、各団体にどれくらいの効果があり、それが市全体の生涯学習推進にもたらす効果が見えてこない(チラシ掲載を忘れても例年通りの会員が集まったという報告もある)。2色ページ×8ページにかかる印刷・配達費用に見合った効果があるのかは疑問。
【再掲】 市民生涯学習支援事業 生涯学習指導者登録制度 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	市民が企画した持ち込みの講座等の相談に市民生涯学習支援事業を活用。また、講師派遣の要望については、生涯学習指導者登録も参考にしながら個別に相談対応しコーディネートしている。	○市民自らが講座を企画し、講座からサークルが立ち上がるなどの成果がみられた。 ●生涯学習指導者登録について、講師等の相談を受けた場合に指導内容と相談者にニーズが一致しないケースが多く、活用が難しい。

3 生涯学習施設の整備と活用

① 高度情報化等利用者ニーズへの対応

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
生涯学習施設管理運営事業	社会教育文化課	ICTに対応した、会議用備品の整備を進め、学習ニーズに合った環境整備を計画的に行います。	○備品や環境の計画的な整備については予算の都合上現段階で進んでいないが、Wi-Fiのフリースポットとなっており、学生等若い世代の来館につながっている。
デジタルキャンパスネットワーク事業	学校教育課	小中学校のパソコン教室の環境整備とともに、教育用ネットワークの構築推進を図る。	○各学校にパソコン教室があり、情報化社会に対応するための学びの場として機能している。 ●教育用タブレットの導入、学校無線LAN環境の構築に向けた計画の策定。
図書館業務電算システム運営事業	図書館	中央図書館と各分館等をネットワーク化し、携帯電話等でも図書サービスを利用できるようにシステムを運営する。	○オンラインでの検索・予約、ICチップによる自動貸出等の各種機能により利用者の利便性が高まった。 ●図書館業務の基幹となるシステムであり、次期システム導入を視野に入れ、情報化の流れに即した利用者サービスや事務業務等を検討していく。 ●酒田コミュニケーションポート(仮称)におけるライブラリーセンターの移転については、新たに立ち上げとなった設置準備部門や都市デザイン課と連携して、スムーズな移転を可能とするための準備作業を計画的に進めていく。
体育施設管理事業(体育施設予約管理システム)	スポーツ振興課	インターネット及びスマートフォンにて、体育施設の予約ができるシステムを運営する。	○利用機会の均等を図るため、予約管理システムの改修を行った。 ●使用料金の見直し ●減免基準の見直し

② 生涯学習関連施設の利活用

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
わらべのひな祭り(出羽遊心館) 春の市民茶会(出羽遊心館) 冬あそびお泊り会 (ひらた生涯学習センター) 家庭教育講演会(公益研修センター) 吉野弘朗読会(希望ホール小ホール)	社会教育文化課	各事業(春の市民茶会、わらべのひな祭り展示を出羽遊心館・冬あそびお泊り会をひらた生涯学習センター)で実施する。	○総合文化センター以外にも出羽遊心館、ひらた生涯学習センター、公益研修センター、希望ホールなど関連施設を活用した事業を実施している。
文化施設管理運営事業	社会教育文化課	【市立資料館】歴史資料・民俗資料を中心とした企画展示を行う。 【松山歴史公園】松山地区の関連する資料を中心とし企画展示や、呈茶体験、鑑着付け体験等を行う。 【旧阿部家】季節ごとの事業(春:よもぎ団子づくり等 秋:お茶会 冬:正月行事)を行う。 【旧鑑屋】指定管理者に施設管理を委託し、呈茶体験、着物・お雛様・塞道の幕絵の展示等を行う。	○各施設ともに積極的に企画展示を実施している。 ○多くの施設で入館者数が前年度に比べ減少している。 ●入館者数の増加を図る。
読書活動推進講演会(出羽遊心館) (子ども読書活動推進事業)	図書館	読書活動推進講演会(著名な絵本作家による講演会)を出羽遊心館で開催する。	○絵本作家講演会を開催し、子どもを含め多くの人が参加した。 ●講演会や各種講座の開催により、図書館活動への関心を高め、貸出冊数の増加を図る。
理科教育センター推進事業	学校教育課	理科教育センターでの研修会等の実施をする。	○理科センターの各室利用者数の増加、理科センターの備品貸し出しの増加などセンターとしての機能が有効に活用されている。 ●鳥海山・飛鳥ジオパークやプログラミング教育の研修など今日的な教育課題への対応が求められている。

II 生涯学習社会の基礎づくり

1 ライフステージに合わせた学びの推進

① 乳幼児期

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
孫と一緒に♪リトミック 親子ですくすく出前講座 幼児すてっぷ出前講座等 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	各保育園・幼稚園と連携した各種講座等親子体験型・遊びを通した幼児教育等の実施により、幼児期における感受性の醸成を図る。	○保育園、認定こども園等にさまざまな出前メニューを提供している。子育て支援センターと事業が類似しないように、主に就園児童についての事業を行っている。
各種読み聞かせ講座 おはなし会 絵本づくり講座 読書活動推進講演会 読み聞かせ講話(出張講話) 家読「うちどく」の推進 読書手帳の活用 (子ども読書活動推進事業)	図書館	各種講座等の実施により、子どもたちの身近にいる大人たちが子どもと本をつなぎ、子どもたちが幼少期より本に親しむことができるよう支援を図る。 3か月の乳児(希望者)、保育園・幼稚園児に読書手帳を配布し、家庭での読書習慣の醸成、本をとおした家族のコミュニケーションが深まるよう支援する。	○3か月の乳児、保育園・幼稚園児に読書手帳を配布した。 ●家庭での読書習慣の醸成し、利用者の拡大や貸出冊数の増加を図る。
各保育園・幼稚園・認定こども園への図書資料の団体貸出	図書館	各保育園・幼稚園・認定こども園等への図書資料の貸出を行う。	○各団体の貸出カードで1か月間の期限で図書を貸し出すことが可能。 ●読書習慣の醸成し、利用者の拡大や貸出冊数の増加を図る。
ブックスタート支援事業	子育て支援課(図書館も協力)	赤ちゃんとのふれあいのきっかけとなる読み聞かせと親子のふれあい、読み聞かせの仕方を3か月児健診時に行うとともに絵本2冊を配布する。	○絵本を提供することで、親子のふれあいのきっかけを創るとともに、幼少期から本に親しむ習慣づけを図った。 ●担い手である読み聞かせボランティアが不足している。
親子ふれあい広場 おおきな一れ 食育講座 おはなしひろば あそびのおへや プレイランド (児童センター運営事業)	子育て支援課	子育て支援の拠点施設として育児に関する相談、親子のふれあい、運動あそび、離乳食作り・相談、読み聞かせ、創作活動などの事業を実施、育児サークル育成支援等をする。	○各種子育て講座を開催し、育児力の向上を図るとともに、親子のふれあい・交流の場を提供した。 ●大型屋内遊具の老朽化、少子化や入園率の増加、近隣自治体における類似施設の整備など、複合的な要因により利用者の減少傾向が続いている。
あそびの広場 すくすく広場 みんなの広場 ほっとハウス にこにこ広場 育児講座等 (子育て支援センター運営事業)	子育て支援課	育児に関する相談、親子のふれ合いや、交流機会の提供、育児サークルの育成支援などを行う。	○平成29年度の年間延べ利用者は約4千人増加し、各地域において育児に対する不安・負担感の解消につながった。 ●少子化や入園率の増加に伴い、実利用者人数は減少していると思われる。
英語で発信できる子ども育成事業 (幼児クラス) 28年度で完了	まちづくり推進課→ 社会教育文化課	ネイティブスピーカーと触れ合い、英語に慣れ親しむことにより、英語で自分の意思を伝えることができる人材を育成する。	○市内4会場で毎週土曜日、年長児～小6まで縮小クラスに分け事業を実施した。 ○平成32年度より外国語活動が小学校3・4年生から始まり、外国語が小学校5・6年生より教科化されることから、29年度より学校での外国語教育について充実を図ることとなり、平成25年度から実施してきた本事業は、28年度で終了となった。

② 少年期

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
地域の教育力向上事業	社会教育文化課	地域のひととのふれあいを通した事業を行い、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図る。	○市街地を除く25コミ振で、ひとづくり・まちづくり総合交付金に加算して実施。社会教育指導員が担当地区を訪問し、必要に応じて助言している。
みんな集まれお正月 酒田マリーンジュニア合唱団等 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	学校の枠を超えての自然体験や合唱活動を通して自主性や協調性をはぐくむ。また、学校と連携しながらキャリア教育や基本的な知識の習得、コミュニケーション能力等を向上させるための学習の場を提供する。	○酒田マリーンジュニア合唱団では、学校・学年の枠をこえ交流を深めることができた。また、みんな集まれお正月では、正月にちなんだ伝統的な遊びを体験することができた。
酒田っ子はぐくみ事業 地域人材交流講座 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	小中学校の授業等に地域の先生や各種講師を派遣している。	○地域人材交流講座は多数の学校で活用され、地域住民が学校活動に参画する機会となっている。 ●酒田っ子はぐくみ事業の学校選択方式が地域人材と違いが分かりづらく整理が必要。また、メニューの充実が課題。
中高生ボランティア支援事業	社会教育文化課	ボランティア活動とふれあい交流を通して、思いやりの心をはぐくみ、異年齢間の交流を推進する。	○従来の活動に加え、会員たちの要望をもとにした広くさまざまな活動をおこなうことができています。サークル同士の交流会も実施している。 ●リーダーの育成。参加メンバーの固定化。
海洋少年団等活動支援 (生涯学習振興支援事業)	社会教育文化課	市内の社会教育関係団体(海洋少年団等)の活動の支援を行う。	○県外・県内合宿や全国大会等の参加を通じて他県の団体と交流する機会をもつことができた。また、普段も通常訓練のみではなくさまざまな体験・訓練をおこなっている。 ●団員数の確保。指導後継者不足。

鳥海山・飛島ジオパーク推進講座事業（少年期向け）	社会教育文化課	鳥海山・飛島ジオパークが日本ジオパークネットワークの認定を受け、鳥海山・飛島ジオパークの活性化に資することを目的にパークエリア内の歴史・文化・自然を学ぶ。	○実際に現地へと行き五感をつかって全身でジオパークを体験することができた。 ●参加者数の確保
狂言体験ワークショップ	社会教育文化課	市内全校の小学5年生を対象に狂言師を講師に招き狂言の体験、鑑賞を行う。	○伝統芸能である能に触れることができ、児童の豊かな感性の育みや、伝統芸能への関心が高められた。
中学生海外交流事業「はばたき」	学校教育課	中学2年生をアメリカに派遣し、国際感覚を持つ人材の育成を図る。	○5泊6日のホームステイや日本文化紹介等を通して、心の交流の大切さや文化の違い、生き方を学ぶことができた。 ○昨年度に引き続き、見学地をワシントンD.C.にした。アメリカの歴史を学習できるという点で、研修地としてふさわしい場所である。 ○帰国後の報告会は、「文化交流の意義」「外国文化の理解」等という点で非常に貴重な経験であったことを表す内容であった。 ●学校による人数の差 ●健康面や入国等のトラブルなどの緊急時への対応。（来年度も4名の引率が望ましい。）
松山青少年国内外交流事業	松山総合支所 地域振興課	国外（アメリカ）と国内（鹿児島）との青少年交流事業を行うことにより、視野を広げ、地域リーダーの資質を養い、国際化時代に対応できる人間を育成。	【アメリカ交流】 ○研修生のレポートからも本事業は大変好評であり視野のグローバル化が図られているものと考えている。特に平成30年度より応募対象をこれまでの東部中学校のみから市内の全中学校に広げ、研修参加資格の機会均等を図っている。 ●相互交流を前提としているため、アメリカの研修生の受入環境が整えられる家庭から研修生を募集することになる。 【鹿児島交流】 ○事後アンケートの結果から、参加した児童はもちろん保護者からも好評と児童の成長を期待する声をいただいている。参加した児童が後に上記アメリカ交流等にも参加していることから、児童が今後国内外の異文化との交流を行っていく上での土台作りなるものと考えている。 ●松山小学校の児童数減少に伴い、参加を応募する児童も減少傾向にある。
少年の翼交流事業	学校教育課	小学5・6年生を沖縄に派遣するとともに、今帰仁村の児童を迎える。	○体験や交流を通じた学習により視野を広げ、異なる自然や文化、平和への理解を深める機会となっている。 ●航空運賃等の値上げに伴う経費の増加、民泊受け入れ家庭の確保。
八幡・東村児童交流の翼事業（青少年国内外交流事業）	八幡総合支所 地域振興課	八幡地域と沖縄県東村の児童による相互交流事業（夏に八幡地域の児童を20名派遣、冬に東村の児童20名程度を受け入れ）を実施する。	○交流を通じて友情を育み、児童の協調心・自立心を養い、平和の尊さや郷土の良さを認識する機会になっている。 ●歴史ある交流経過がある一方、市町合併から1縮小年が経過した今後の事業の継続性。
平田っ子交流会（青少年国内外交流事業）	平田総合支所 地域振興課	岐阜県海津市との小学生交流事業を行う。	○互いの地域を訪問し合うことで、郷土愛の醸成や心身を含めた児童の成長につながっている。 ●旧平田町在住児童のみを対象としているが、児童数が減少しているため、参加児童の確保が難しくなってきた。
中村ものづくり事業	学校教育課	科学・工学系のものづくりやものづくりの現場（企業）訪問等を通し、科学的・技術的な資質を育成する。	○3大事業である、①ものづくり塾②サイエンス発明教室3出前授業に取り組み、産業フェアを発表の場として位置づけ、塾生や市民の関心を高めることができた。 ●小学生に比べ、中学生を対象とした活動の場が不足している。
飛島いきいき体験スクール支援事業	学校教育課	飛島をフィールドにした体験学習を行う。	○飛島の関係施設、旅館等の協力のもと、現地での活動・交流を充実させることができた。 ○実施校からは、島ならではの体験を通して自然のすばらしさや人の温かさに触れる貴重な機会であったとの評価をいただいた。 ○各校でジオガイドを効果的に活用している。 ●ジオパーク構想の全体像の中で、より意図的なジオパークの学習ができるようにしたいと考えている。 ●活動支援ボランティアの確保。
自然体験学習推進事業	学校教育課	鳥海高原家族旅行村を基点とした自然体験学習を行う。	○児童に貴重な自然体験の場を提供する場になっている。ボランティア団体と連携して様々な体験を整備している。児童の安全確保に向けた検証や整備の継続が必要。
小中高等学校への図書資料の団体貸出	図書館	小中高等学校への図書資料の貸出を行う。	○各団体の貸出カードで1か月間の期限で図書を貸し出すことが可能になっている。 ●読書習慣の醸成し、利用者の拡大や貸出冊数の増加を図る。
絵本づくり講座 読書活動推進講演会 読書感想文の書き方講座（仮称） 読み聞かせ講話（出張講話） 家読「うちどく」 読書手帳 （子ども読書活動推進事業）	図書館	各種講座等の実施、読書手帳やおすすめ本リスト、家読だよりを配布し、子どもたちが本に親しみ、家庭での読書習慣の醸成、本とおした家族のコミュニケーションが深まるよう支援する。	○各種講座等の実施、読書手帳やおすすめ本リスト、家読だよりを配布した。 ●本に親しみ、家庭での読書習慣の醸成、本とおした家族のコミュニケーションの拡大を図る。
福祉の担い手育成事業	福祉課	市内小・中学校にて高齢者疑似体験等の体験プログラムを通して、高齢者等への理解を深め、思いやりを持って接することができる人材を育成する。	○核家族化が進んでいる中、H29は14校21クラス518名の生徒・児童が疑似体験を実施し、高齢者等の身体的変化の理解を深めた。 ●事業メニューの拡充
わんぱく広場（児童センター運営事業）	子育て支援課	小学生向けの親子とのふれあいや創作事業等を実施する。	○平成30年度より毎月第2日曜に小学生向けの講座を新設し、利用人数も順調に推移している。 ●子どもの集まりやすい休日の開催を増やすことで、職員の負担が増加している。
酒田緑の少年団	農林水産課	市内の小・中学生を対象とし、森林に関わる体験学習を実施する。	○体験学習や他の少年団との交流会などを通じ、子どもたちが緑を愛し、緑を守り・育てる心を養う機会となっている。 ●団員の確保、新規の少年団の結成

ウインタースポーツの集い IN 眺海の森 の開催 (生涯スポーツ振興事業)	松山総合支所地域振興課	松山スキー場の活用とウインタースポーツを通じての交流人口の拡大を図る。	○昨年度から始めた事業であるが、実績として約500名の参加があり、スキー場を含め、冬の眺海の森活性化の一助になった。 ●本事業は眺海の森さんやスキー場を管理しているNPO法人に委託して行っているが、現在、当該法人の経営状態が思わしくなく、冬場の閉鎖が予定されていることから、開催形態の見直し、もしくは状況によっては廃止を考えることになる。
英語で発信できる子ども育成事業 (小学生クラス) 28年度完了	まちづくり推進課→ 社会教育文化課	ネイティブスピーカーと触れ合い、英語に慣れ親しむことにより、英語で自分の意思を伝えることができる人材を育成する。	○市内4会場毎週土曜日、年長児～小6まで縮小クラスに分け事業を実施した。 ○平成32年度より外国語活動が小学校3・4年生から始まり、外国語が小学校5・6年生より教科化されることから、29年度より学校での外国語教育について充実を図ることとなり、平成25年度から実施してきた本事業は、28年度で終了となった。

③ 青年期

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
基本の料理とお菓子 新成人マナーアップ等 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	各種講座を開催し、青年の学びと仲間づくりの場を提供する。	○講座を通して青年の仲間づくりにつなげることができた。 ●講座に参加者が一番集まりづらい年齢層であり、どうしても趣味的な講座を開催しがち。実施回数も参加しやすいように少なめに設定している。
【再掲】 中高生ボランティア支援事業	社会教育文化課	ボランティア活動とふれあい交流を通して、思いやりの心をはぐくみ、異年齢間の交流を推進する。また、高校生ボランティアによる巨大迷路の企画・運営によって人材育成に取り組む	○従来の活動に加え、会員たちの要望をもとにした広くさまざまな活動を行うことができている。サークル同士の交流会も実施している。 ●リーダーの育成。参加メンバーの固定化。
成人式開催事業	社会教育文化課	成人式実行委員による成人式の企画運営を行う。	○新成人たちが会議を重ね企画運営を行うことで、主体性をもって式典を実行できている。 ●実行委員数のなり手不足。
子ども読書活動推進事業	図書館	中学1年生への読書手帳配布、中高生向けのおすすめ本リスト等の配布。 館内中高生向け本の充実	○中学1年生への読書手帳配布、中高生向けのおすすめ本リスト等の配布をした。 ●中高生向け本の充実等により読書習慣の醸成し、利用者の拡大や貸出冊数の増加を図る。
出前講座事業	市長公室	本市の施策や事業・制度のしくみなどを、担当の職員が直接出向き情報提供を行う。	○市民からの申し込みにより講座を開催している。今年度は災害の発生が多かったため、災害に関する申し込みが多い。担当者が市民と対話しながら情報提供できる場として効果があると認識している ●メニューにない内容での問い合わせや申し込みもあり、担当課で対応可能であれば開催している。また、1度も申し込みが無いメニューもあり、年度ごとにメニューの見直しが必要と考える。
さかたでアグリ支援事業	農政課	新規就農者の総合的な支援事業として、酒田市での就農を目指す者に対し、「就農希望」、「就農準備」、「就農開始」の各段階に応じた支援を実施し、円滑な就農促進と新規就農者の農業経営の早期確立を図る。	○「就農準備」段階については、農業体験・短期研修希望者と先進的農業経営体とのマッチングにおいて、体験・研修にかかる謝金を研修生受入経営体に支払い、支援を行っている。 ●新しい作物の栽培を希望している方を対象とした体験・研修に対しても支援可能であるため、その周知が必要。

④ 成人期

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
地域教育力向上スキルアップ講座 コミュニティ振興会連携事業等 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	講座並びに講習会を開催し地域のリーダーのスキルアップを図る。	○活発に事業に取り組むコミ振や社会教育文化課で実施した事業を紹介し、事業の企画立案の参考にしていた。またグループトークを通して他のコミ振と情報交換ができた。 ●参加者の確保
写真のワークショップ	社会教育文化課	写真撮影と作品の講評、レクチャー	
北前船講演会、ワークショップ	社会教育文化課		○おのおの専門の講師の方より講演をいただき、北前船をさまざまな角度から捉えることができた。 ●参加者が固定化している
企画展示	図書館	時節の事柄や話題になっている事柄に関する本を集め、展示することで、興味・関心を高めてもらうよう働きかける。	○時節の事柄や話題になっている事柄に関する本の企画展示の実施により、興味・関心を高め、利用者の拡大や貸出冊数の増加につなげた。 ●所蔵資料の充実に加えて、企画展示の常設化やリサイクル図書コーナーの設置など、本との出会いの機会を増やし、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用拡大を図る。
光丘文庫所蔵資料常設展示とギャラリートーク事業	図書館	光丘文庫所蔵の貴重な資料を広く市民に知ってもらうため、テーマに応じた書物を展示し紹介をする。歴史的な事柄や専門的な事柄について講師によるギャラリートークを開催し、知的好奇心を高める。	○テーマに応じた書物の企画展示や歴史的な事柄や専門的な事柄について講師によるギャラリートークを開催し、周知を行った。 ○長年の懸案事項であった所蔵資料の移転を完了したほか、書庫内の遮光を実施したことにより、所蔵資料の保全が図られた。 ○所蔵資料の認知度を高めることが急務となっていることから、その価値を全国に広めるために「光丘文庫デジタルアーカイブ」を構築した。 ●移転前と異なり、土日の開館ができないという事情により、利用者数が低迷している状況が続いていることから、利用者の増加を図るための工夫が必要となっている。 ●ICT技術を活用することにより、利用者増に向けた利便性の向上策や光丘文庫の認知度を高めるための情報発信が急務である。
とびしま渚泊事業	農林水産課	飛島において、一泊で漁業に関する体験型学習を行う。 体験メニュー：釣り体験、漁業体験、海鮮バーベキュー、漁船クルーズ、漁師料理体験、スノーケリング、イカダ遊び 等実施主体は、とびしま渚泊協議会	○H30年度は準備・企画を実施 H31年度から漁業体験型学習を実施する。 ●事業未実施のため、課題は不明
【再掲】 出前講座事業	市長公室	本市の施策や事業・制度のしくみなどを、担当の職員が直接出向き情報提供を行う。	○市民からの申し込みにより講座を開催している。今年度は災害の発生が多かったため、災害に関する申し込みが多い。担当者が市民と対話しながら情報提供できる場として効果があると認識している。 ●メニューにない内容での問い合わせや申し込みもあり、担当課で対応可能であれば開催している。また、1度も申し込みがないメニューもあり、年度ごとにメニューの見直しが必要と考える。

⑤ 高齢期

項目名	関係課	取組状況	現状 (○) と課題 (●)
高齢者の生きがいと健康づくり総合推進事業	福祉課	介護予防の普及啓発を図るため、体育、レクリエーション、世代間交流などの各種事業を実施する。(酒田市老人クラブ連合会各支部に委託)	○各支部毎に各種事業を展開し、H29は延べ7,407人の参加者が集まった。 ●事業の業務量に対して、団体事務局が対応困難になってきている。
シルバー人材センター補助事業	福祉課	就労を通じ、高齢者の社会参加の機会を確保し、生きがいの充実を図る。	○定年制の延長や廃止など、取り巻く社会情勢の変化によるため会員の確保が困難となり会員数の減少と共に受託件数も減少傾向にある。 ●会員数の確保
老人クラブ助成事業	福祉課	地域を基盤として活動する老人クラブに助成し、高齢者自らの生きがいと健康づくりを進める活動、ボランティア活動、社会奉仕等の活動を促進する。	○クラブの解散や新規会員の減少により会員数の減少が続いている。H30 107クラブ 4,552人。 ●クラブ会員数の確保
【再掲】 出前講座事業	市長公室	本市の施策や事業・制度のしくみなどを、担当の職員が直接出向き情報提供を行う。	○市民からの申し込みにより講座を開催している。今年度は災害の発生が多かったため、災害に関する申込みが多い。担当者が市民と対話しながら情報提供できる場として効果があると認識している。 ●メニューにない内容での問い合わせや申し込みもあり、担当課で対応可能であれば開催している。また、1度も申し込みがないメニューもあり、年度ごとにメニューの見直しが必要と考える。
市民認知症講演会	介護保険課	住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域をつくるため認知症についての正しい理解を身につける。	○認知症に対する正しい知識の普及啓発やその対応を学ぶこと、また、徘徊による行方不明者の発生を未然に防止することの機会になっている。 ●地域や関係機関との連携の強化が必要
一般介護予防事業	介護保険課	身近な通いの場で、効果がある介護予防に取り組むことにより運動機能向上や閉じこもり予防を図る。	○高齢者の状況にあわせて、運動機能向上や栄養改善や口腔機能向上等の介護予防メニューの普及啓発をしている。平成28年度から、いきいき百歳体操を利用した住民主体の通いの場の立ち上げ、継続支援を行っている。 ●関係機関と連携を図りながら事業をすすめていく。

2 家庭・学校・地域の連携

① 家庭教育支援の充実

項目名	関係課	取組状況	成果 (○) と課題 (●)
地域家庭教育講座 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	P T A・学校・地域が協同して実施する「子育てに関する研修会」や「親子の体験型学習」に対するの支援と、新入学児(小学校)説明会や就学時健診時を利用した研修会を実施する。	○小中学校が開催する保護者等の研修に講師謝金の補助を行っている。助産師の「いのちの講話」や家庭教育アドバイザーの講義を実施した。
赤ちゃん登校日 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	切れ目のない家庭教育支援を充実するため、将来親になる子どもたちに、自己肯定感をはぐくみ親になることについて学ぶ機会を提供する。(対象 小6・中学生)	○保護者からの愛情や自己肯定感を育む機会として取り組んでいる。 ●H30より小学生の高学年を対象に事業を実施している。実施校との事前打合せを丁寧に行い、協力いただいている親子を迎える体制をしっかりとすることが重要
【再掲】 絵本づくり講座 読書活動推進講演会 読書感想文の書き方講座(仮称) 読み聞かせ講話(出張講話) 家読「うちどく」 読書手帳 (子ども読書活動推進事業)	図書館	保育園・幼稚園・小学校と連携し保育園・幼稚園児・小学生等に読書手帳を配布し、家庭での読書習慣の醸成、本とおした家族のコミュニケーションが深まるよう各種講座やおたより等の発行を行う。	○保育園・幼稚園・小学校と連携し保育園・幼稚園児・小学生等に読書手帳を配布し、家庭での読書習慣の醸成、本とおした家族のコミュニケーションが深まるよう各種講座やおたより等の発行を行った。 ●家庭での読書習慣の醸成し、利用者の拡大や貸出冊数の増加を図る。
家庭教育講演会 (生涯学習推進講座開催事業) H30で終了	社会教育文化課	H27年度まで、子育て支援課、まちづくり推進課、社会教育課の3課合同で開催してきたが、他課の予算が削減となったため、社会教育文化課単独で開催。酒田鮑海のP T A研究大会に講師を派遣し小中学生の保護者を対象に効果的に実施をしている。	○酒田鮑海PTAと連携し研修の機会を提供してきた。 ●PTAでも講師謝金を予算計上しているため、市ではシーリングに伴い予算を削減した。会場の減免や運営の面で支援をしていく。
にこっと広場・出張ひろば (つどいの広場事業)	子育て支援課	N P O法人と連携し、育児相談や各種講座を開催することにより、子育てに対する孤立感や不安解消につなげる。	○商店街の空き店舗を利用し、子育て支援の拠点として活用している。 ●現在の実施場所が狭隘で、スペース的に今以上の利用者の増加が見込めない状況にある。
山形みんな子育て応援団地域連携事業 (少子化対策地域推進事業)	子育て支援課	地域の育児サークル等が行う、地域資源や高齢者の力を活かし子どもや親子に多様な体験を提供するイベントに支援する。	○多くの団体が利用しやすいように、要綱の見直しを行った。 ●地域の子育て応援団の高齢化により、活動継続が困難な団体が始めている。
妊娠・出産・子育て包括支援(ネウボラ)事業 (妊産婦健康管理事業)	健康課	マタニティ教室や産後の骨盤ケア教室、妊娠中から子育てについてイメージできるぎゅっとサロン等の開催により、妊産婦の健康や子育てに関する不安や悩みの解消を図る。	○子育て包括支援センターぎゅっとの開設により、相談窓口が周知され教室等の参加が多くなっている。

② 学校での学びの充実

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
【再掲】 酒田っ子はぐくみ事業 地域人材交流講座 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	小中学校の授業等に地域の先生や各種講師を派遣している。	○地域人材交流講座は多数の学校で活用され、地域住民が学校活動に参画する機会となっている。 ●酒田っ子はぐくみ事業の学校選択方式が地域人材と違いが分かりづらく整理が必要。また、メニューの充実が課題。
外国人英語講師招致事業	学校教育課	外国人英語講師の招致と小中学校へ派遣を行う。	○ネイティブスピーカーとコミュニケーションを図ることで、外国語を学ぶ興味・関心を高められる。学んだ内容を使ってコミュニケーションできる機会を設定でき、外国語学習の動機づけとして非常に効果的である。 ○外国語活動の教科化に向けて、小学校への派遣日数を増やしている。5・6年生全クラスで、ALTとのTTを約20時間実施した。外国語を使ってのコミュニケーションに慣れ親しむことができています。 ○ALT3名から8名に増員となり、中学校には各クラス約30時間派遣が可能となった。 ○ALTから自国文化について直接紹介してもらうことで外国文化を理解する機会となっている。 ●ALT及び小学校の先生方の授業力向上を図る研修会の実施
教育相談充実事業	学校教育課	教育相談専門員の雇用と教育相談室の運営を行う。	○様々な相談に柔軟に対応したり、関係機関とつないだりして、相談者や通級児童生徒のニーズに答えている。 ●教育相談専門員の人材確保が難しい。
スクールカウンセラー等活用事業	学校教育課	中学校へのスクールカウンセラー等を配置する。	○専門的な立場から児童生徒を多面的にとらえ、児童生徒・保護者はもちろん、教員への指導・助言を行ない、安定した学校生活が送れるようにチーム学校の一員として活躍している。 ●人材確保と予算確保が難しいため、配置日数・時間が限られる。
中学生職場体験学習推進事業	学校教育課	キャリア教育の一環として実施される職場体験学習の支援を行う。	○実行委員会から各校に配当された負担金により、全ての学校で賠償責任保険に加入することができ、教員の巡回指導旅費も支出することができた。また、配当負担金は、研修費として体験実施の事前事後の学習活動にも役立てられており、職場体験学習の充実に十分に寄与している。 ○中学校7校で、2～3日間の職場体験学習が実施できた。 ●新たな職場体験先の開拓。
日本語指導講師等派遣事業	学校教育課	外国籍等の児童生徒へ日本語指導等を行う。	○個に応じた日本語指導を行うことにより、児童生徒が学校生活に適應することに大いに役立っている。児童・生徒の精神的安定にも効果は大きい。 ●小中の丁寧な情報の共有 ●講師の確保
【再掲】 飛島いきいき体験スクール援事業	学校教育課	飛島をフィールドにした体験学習を行う。	○飛島の関係施設、旅館等の協力のもと、現地での活動・交流を充実させることができた。 ○実施校からは、島ならではの体験を通して自然のすばらしさや人の温かさに触れる貴重な機会であったとの評価をいただいた。 ○各校でジオガイドを効果的に活用している。 ●ジオパーク構想の全体像の中で、より意図的なジオパークの学習ができるようにしたいと考えている。 ●活動支援ボランティアの確保。
【再掲】 自然体験学習推進事業	学校教育課	鳥海高原家族旅行村を基点とした自然体験学習を行う。	○児童に貴重な自然体験の場を提供する場になっている。ボランティア団体と連携して様々な体験を整備している。児童の安全確保に向けた検証や整備の継続が必要。
明るく楽しい元気な学校づくり支援事業	学校教育課	地域社会や児童生徒の実態に応じた明るく楽しい元気な学校づくりを支援する。	○学校が独自の視点から、学校裁量により新たな課題に取り組むことのできる事業であった。 ○地域連携・地域学習活動の推進を事業に据えた学校も多くあり、総じて地域と学校との緊密な連携が伺われた。 ●計画に沿った事業執行や適正な事務処理に課題がある学校もあった。
ADHD等支援体制推進事業	学校教育課	特別に支援の必要な児童生徒の理解や支援方法、学校の体制づくりを支援する。	○特別支援の理解を深める研修会の実施。巡回相談員による本人、保護者、学校への支援。 ○主な事業として、特別支援教育コーディネーター担当者会(年1回)、特別支援学級担当者会(年3回)、特別支援教育研修会(年1回)ペアレントトレーニング(保護者向け研修会:年5回の1クール)を実施し、特別に支援の必要な児童生徒の支援のあり方について研修し、理解を深めることに努めている。また、巡回相談員と学校との連携が進み、SST等児童生徒への直接的なかわりとともに保護者面談や担任への具体的な指導方法の助言が効果的にできている。 ●巡回相談員による支援が小学校を対象としていることから、中学校における支援を充実させることが課題である。 ●学校からの相談件数増加への対応
教育支援員充実事業	学校教育課	教育支援員を配置し、学校生活・学習活動の充実を図る。	○教育支援員の配置により、通常学級に在籍する発達障がい疑われる児童生徒や特別支援学級の児童生徒に対して支援を行い、適切な学習環境を提供することに努めている。 ●支援にあたり、児童生徒について共通理解を図る場を設ける工夫をすることや教育支援員のさらなる質的向上を図ること。
小中学校スポーツ振興事業	学校教育課	陸上競技記録会、水泳記録会の実施及び陸上指導サポーター派遣、中学校武道指導協力者派遣を行う。	<陸上運動等サポーター派遣事業> ○本市の課題である「走」や「運動遊び」に特化した内容での事業を実施した。サポーターの派遣を通して、中学年担当教員に、1～4年生で経験させたい陸上運動の様々な動きについて周知を進めることができた。 ○実施校において50m走のタイムにも向上が見られた。 ○派遣後にその運動を継続して授業等に取り入れてもらっている。 ●1校あたりの派遣回数を増やししながら、さらに深い指導助言をいただき、教員の指導力向上につなげていきたい。 <中学校武道指導協力者派遣事業> ○講師より専門的な視点から指導していただき、生徒の意欲の向上や技能上達につながった。 ○指導する教師にとっても、専門的な指導を学ぶ機会となり、今後の指導につながるものとなった。

③ 地域での教育の充実

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
地域教育力向上スキルアップ講座 コミセン連携事業 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	講座並びに講習会を開催し、地域のリーダーの育成を図る。	○活発に事業に取り組むコミ振や社会教育文化課で実施した事業を紹介し、事業の企画立案の参考にしていただいた。またグループトークを通して他のコミ振と情報交換ができた。 ●参加者の確保
学校・地域・家庭連携協働推進事業	社会教育文化課	放課後子ども教室の実施	○放課後の居場所としてコミセンの空き教室を開放。多くの生徒が活用している。 ●体験プログラムの内容の充実と地域住民の参画促進が課題
【再掲】地域の教育力向上事業	社会教育文化課	地域の人とのふれあいを通じた事業を行い、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図る。	○市街地を除く25コミ振で、ひとづくり・まちづくり総合交付金に加算して実施。社会教育指導員が担当地区を訪問し、必要に応じて助言している。
コミュニティ振興事業	まちづくり推進課	コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に対する活動の支援を行う。	○コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に対する活動の支援を行う。 ●地域活動への参加を促進し、地域づくりを担う人材の育成が必要である。
地域高齢者支え合い事業	福祉課	自治会が行っている介護予防事業・居場所づくり事業に対し補助金を交付し、高齢者の心身機能の維持向上を図る。	○H30より介護保険課のしゃんしゃん元気づくり事業に移行。現在は事業の経過措置分として補助を実施。H30介護予防11件、居場所づくり22件。

④ 連携による事業の充実

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
【再掲】中高生ボランティア支援事業	社会教育文化課	ボランティア活動とふれあい交流を通して、思いやりの心をはぐくみ、異年齢間の交流を推進する。	○従来の活動に加え、会員たちの要望をもとにした広くさまざまな活動を行うことができている。サークル同士の交流会も実施している。 ●リーダーの育成。参加メンバーの固定化。
【再掲】 地域家庭教育講座 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	P T A ・学校・地域が協同して実施する「子育てに関する研修会」や「親子の体験型学習」に対する支援と、新入学児(小学校)説明会や就学時健診時を利用した研修会を実施する。	○小中学校が開催する保護者等の研修に講師謝金の補助を行っている。助産師の「いのちの講話」や家庭教育アドバイザーの講義を実施した。
飛鳥ふるさとふれあい事業	とびしま総合センター	小・中学生の自然体験をはじめ、子供から大人まで島民が交流できる各種事業を実施する。	○飛鳥小中学校の児童生徒向けに実施する自然体験事業。 ●児童数減少により活用する機会が減った。H28実績なし、H29より学校予算で対応することから予算削除した。
手作り学校環境整備事業	教育委員会 企画管理課	児童生徒、学校及び地域が一緒に行う学校施設の環境整備作業に対して必要な資材や技術提供を実施する。	○児童生徒、教職員、地域住民が協力して学校施設の環境整備を行うことにより、地域の連携が強まっている。 ●技術指導の充実
酒田創意くふう展	学校教育課	創意工夫を凝らした作品を募集、展示し、優秀な作品を表彰する。	○毎年多数の出品があり、創意工夫の思想向上や発明心の昂揚という目的は達成されている。 ●小学校以外の出品をどう増やすかを検討。
【再掲】 明るく楽しい元気な学校づくり支援事業	学校教育課	地域社会や児童生徒の実態に応じた明るく楽しい元気な学校づくりを支援する。	○学校が独自の視点から、学校裁量により新たな課題に取り組むことのできる事業であった。 ○地域連携・地域学習活動の推進を事業に据えた学校も多くあり、総じて地域と学校との緊密な連携が伺われた。 ●計画に沿った事業執行や適正な事務処理に課題がある学校もあった。
【再掲】 福祉の担い手育成事業	福祉課	市内小中学校にて高齢者疑似体験等の体験プログラムを通して、高齢者等への理解を深め、思いやりを持って接することができる人材を育成する。	○核家族化が進んでいる中、H29は14校21クラス518名の生徒・児童が疑似体験を実施し高齢者等の身体的変化の理解を深めた。 ●事業メニューの拡充
【再掲】 山形みんなで子育て応援団地域連携事業 (少子化対策地域推進事業)	子育て支援課	地域の育児サークル等が行う、地域資源や高齢者の力を活かし子どもや親子に多様な体験を提供するイベントに支援する。	○多くの団体が利用しやすいように、要綱の見直しを行った。 ●地域の子育て応援団の高齢化により、活動継続が困難な団体が出始めている。
地域子育て応援団づくり事業	子育て支援課	地域で子育て支援に熱意のある人で構成する子育て応援団の事業を支援する。	少子化対策地域推進事業に移行。
児童虐待防止事業	子育て支援課	子どもへの暴力防止教育プログラムのワークショップ意向調査をもとに、学校、幼稚園及び保育園等で開催する。	○毎年希望調査を行い縮小園ほど決定。主に年長児クラスでの希望が多く、卒園前の時期に実施している。 ●ワークショップを希望する園が偏ってきている。

Ⅲ 生涯学習機会の提供

1 生きがいくくり、仲間づくりへの支援

① 各種講座の提供

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
ふるさと自然倶楽部ジオサイトツアー (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	生きがい、仲間づくりの支援を図るため、市民の多様なニーズに応え、生涯学習への動機付けを行う。	○ジオパークを散策しながら学習を行い、生きがい、仲間づくりの支援につながった。
吉野弘を知る (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	生きがい、仲間づくりの支援を図るため、市民の多様なニーズに応え、生涯学習への動機付けを行う。	○酒田市出身の詩人について興味関心のある受講者が集まり、共通のテーマで学習を行っている。市外からの受講者も増えている。 ●同テーマで4年間開催し、吉野弘は大事にしながらも講座以外の新しい視点で事業企画していきたい。
スポーツ行事開催事業	スポーツ振興課	つや姫ハーフマラソン大会をはじめとする各種大会や、各種スポーツ教室を開催する。	○市民体育祭は、年々、各地区参加者のとりまとめが困難となっており、合同チームでの参加が生じている。 ●市民体育祭は、採点種目の見直し、競技内容の見直しにより気軽に参加できる内容へと変更を要す。 ●巡回駅伝は、大会開催時間の見直し、コース変更が課題となっている。
ウインタースポーツ振興 (体育施設管理事業)	スポーツ振興課	冬季スポーツ振興を図るため、スワンスケートリンクやスキー場の運営委託及びスキー教室を開催する。	○各施設を指定管理者管理に移行し、各種教室を開催している。 ●人工ゲレンデは施設設備の劣化による影響か、利用者の減少がみれる。
障がい者スポーツ大会 障がい者軽スポーツ大会 障がい者スポーツ教室の開催 (地域生活支援事業)	福祉課	障がい者の社会参加の促進、障がい者スポーツの普及を図る。	○スポーツ大会及び教室を開催することにより、障がい者の社会参加や交流及びスポーツ普及の場を提供する機会となっている。 H30 スポーツ大会参加者 80名 軽スポーツ大会参加者 49名 スポーツ教室開催回数 21回(予定) ●参加者の高齢化
ひらたタウンセンター筋力トレーニング事業	平田総合支所地域振興課	トレーニング機器を利用した筋肉トレーニングの実施と講習会を開催する。	○新規受講者も例年ベースで申し込みがあり、登録者は4,800人超となっている。利用者からは健康づくりに貢献しているとの評価されている。 ●老朽化した器具の計画的な更新を行ってゆく必要がある。
自分で作ってマスターする 男性の基礎料理講座	健康課	料理初心者男性を対象に、簡単にバランスのよい食事づくりを入り口に、「食」の自立と「心」と「体」の健康づくり、地域を越えての仲間づくりを目的に開催する。	○講座を継続して実施した。 ●参加要件を限定していないため、同じ方が参加されるケースが見られる。
介護の悩みや思いを語り合う 「認知症カフェ」	介護保険課	同じ介護の悩みをもつ方などが集い情報交換と交流などを行う。	○カフェを開催し認知症の本人及び家族が気軽に参加し、家族支援になっている。 ●参加しやすい体制の検討と地域や関係機関との連携の強化が必要
社会人バイオテクノロジー研修会	農政課	家庭ではできない組織培養による花苗づくりの学習によって、植物バイオテクノロジーに関する理解を深める。	近年は研修会としての実績はなく、小中学生向け学習会の保護者参加枠として実施している現状にある。
地域振興事業 (俳句大会、クラシックコンサート、百人一首かるた大会の開催)	八幡総合支所 地域振興課	地域住民の芸術文化意識や学習意欲を高める。	○芸術文化を鑑賞する機会や発表・交流・競技の場として、一定の参加団体や観客数を得て地域に定着している。 ●文化祭における参加団体の固定化
鳥海山・やわた地域ジオパーク研修会	八幡総合支所 建設産業課	やわた地域のジオパーク散策と研修。	○リピーターが多く、参加者も20名程度と統制が取れやすい。毎回コンスタントに参加者がいる。 ●屋外活動が主で天候に左右される。また、トイレや緊急時の対応などが課題。
鳥海山湯ノ台口山開きと登山	八幡総合支所 建設産業課	山頂コースと月山森コースに分かれ登山する。	○リピーターが多く参加希望者は定員以上。 ●万全の対応のためにはガイドの確保が必須であり、定員を増やすことは困難。
平田さしこ教室 (地域振興事業)	平田総合支所 地域振興課	庄内さしこ教室を開催する。	○伝統的技術を後世へ伝えながら、豊かな人材を育成し、生涯学習の場を提供している。 ●さしこの会の高齢化や後継者不足により、さしこ製品のPRが出来ていない状況である。
生涯スポーツ振興事業(各種大会、各教室等の開催)	八幡総合支所 支所地域振興課	幅広い年代にスポーツへの関心を高めるとともに、世代間交流や地域住民の健康維持増進を図る。	○八幡体育祭等の開催により、世代間交流や健康増進に寄与している。 ●八幡スキー場の廃止(予定)と八幡体育祭への参加人数の減少

② 自主学習サークルの育成

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
自主サークル活動の育成	社会教育文化課	公民館主催教室の終了後、生涯学習の継続を図るため、自主サークル化の推進と支援を行う。	○H25年度から8団体が自主サークル化して活動をしている。 ●自主サークル化して活動したいという参加者が減少している。

③ 学習ボランティアの支援

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
【再掲】 自主サークル活動の育成	社会教育文化課	生涯学習について豊富な知識・経験を持つ生涯学習ボランティアを育成し、指導者として活用する体制を作る。	○H25年度から8団体が自主サークル化して活動をしている。 ●自主サークル化して活動したいという参加者が減少している。

④ 学習の成果を発表する場の確保

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
生涯学習まつり 春の市民茶会 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	市内で活動している生涯学習サークル・団体・中央公民館主催教室等の成果発表の場を提供する。	○生涯学習まつりでは、ホール・教室・体育室・モール部門に分かれ、日頃の活動の成果を発表することができた。 ●参加団体の減少
酒田民俗芸能公演会 黒森歌舞伎酒田公演 (さかた歴史街道事業)	社会教育文化課	地域に伝わる民俗芸能を上演することにより保存と継承の推進を図る。	○民俗芸能フェスタでは本市に伝承される民俗芸能のほか、県外から国指定重要無形民俗文化財を招へいし、発表の機会の提供と、市民の方が民俗芸能に触れることができた。 ○黒森歌舞伎は地域や学校と一体となって伝統を継承することができた。 ●民俗芸能保存会加盟団体のうち、活動継続が困難な団体が出てきている。 ●黒森歌舞伎ポーランド公演というこれまでにない大規模公演が控えている。
酒田市民芸術祭	社会教育文化課	芸術文化団体による展示、ステージ発表会を開催する。	
やわた文化祭 (地域振興事業)	八幡総合支所 地域振興課	各種作品展、ステージ発表会を開催する。	○芸術文化を鑑賞する機会や発表・交流の場として、一定の参加団体や観客数を得て定着している。 ●文化祭における参加団体や演目の固定化
地域おこし協力隊活動推進事業	八幡総合支所 地域振興課	都市に住む若者を受け入れて、日向コミ振活動に参画し、地域協力活動に従事してもらい、地域活性化への貢献を図る。	○大文字まつりや地域住民参加の映画づくり等を実施、子育て意見交換会等の住民支援も行って、地域活性化に貢献している。 ●隊員の退任後の起業の困難性や地域での定住や再就職
地域振興事業松山芸術祭	松山総合支所 地域振興課	コミュニティ振興会単位での作品展とステージ発表の情報発信	○各地域の芸術祭の周知により、芸術文化の振興と交流人口の増加が図られた。地域のにぎわい創出につながる事業である。 ●芸文協松山支部会員が減少している。
ひらた文化祭 (地域振興事業)	平田総合支所 地域振興課	各種作品展、ステージ発表会を開催する。	○作品展・ステージ発表会ともに参加団体や個人が増えており、文化祭期間中の来場者も増加している。地域の芸術文化活動への関心が深まり、賑わいづくりに貢献している。 ●地域住民の関わり方を見直しつつ、芸文協平田支部へ事務等の移行を進める必要がある。

2 教育機関等との連携による学習機会の提供

① 各種教育機関等との連携

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
生涯学習施設「里仁館」の運営支援	社会教育文化課	各種生涯学習の機会を提供する生涯学習施設「里仁館」の運営支援を行う。	○庄内一円を対象として生涯学習講座を提供する里仁館へ運営支援を行っている。共催で総合文化センターを会場とした講座も実施している。 ●年々予算の確保が厳しい状況となっており、経費節減や効率的な運営等工夫が必要。
「酒田市産業振興寄附講座」の開設	企画調整課	東北公益文科大学に「酒田市産業振興寄附講座」を開設し、地元企業等のI T人材の育成に取り組む。	【修正理由】 調査委託研究が既に終了していることから。また、「教育機関等との連携による学習機会の提供⇒②学生と市民との学習交流活動の推進」に位置づけされているが、現状の事業内容を鑑み「①各種教育機関等との連携」に変更したい。

② 学生と市民との学習交流活動の推進

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
大学まちづくり地域政策形成事業	企画調整課	大学と地域の連携・協働のあり方や可能性について研究し、市民に公開して市施策に生かす。また、大学に「酒田市産業振興寄附講座」を開設し、地元企業等のI T人材の育成に取り組む。	○平成25～29年度の間、公益大に13件の調査・研究を委託。その成果を公開し、施策に生かした。 ○平成30年度は寄附講座を市内社会人11名が受講。I T人材の育成が進んでいる。 ●調査・研究委託については、平成29年度で事業を一旦終了。 ●寄附講座については、受講者の確保に向けた周知が課題。
飛島活力再生推進事業	まちづくり推進課	島民、大学、民間団体、行政が一体となって離島の活力再生に取り組む。	○島民・大学・NPO・県・市が一体となって協議会組織を運営し、島民座談会等を開催しながら、将来の飛島のあるべき姿に向けて、島民主体の事業を展開してきた。移住定住希望者への対応や外部人材の活動サポート、島民意見の集約など、飛島における諸活動のコーディネート役も担っており、「学習交流活動」「課題解決能力の育成」「コミュニティ組織の活性化」の推進・促進手段として、貴重な事業となっている。 ●協議会事業のあり方全般の見直しの時期にきている。

3 現代的課題についての学習機会の提供

① 時代の潮流となっていることから学び、課題解決能力を身につける

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
【再掲】 「酒田市産業振興寄附講座」の開設	企画調整課	東北公益文科大学に「酒田市産業振興寄附講座」を開設し、地元企業等のIT人材の育成に取り組む。	【修正理由】 調査委託研究が既に終了していることから。また、「教育機関等との連携による学習機会の提供⇒②学生と市民との学習交流活動の推進」に位置づけられているが、現状の事業内容を鑑み「①各種教育機関等との連携」に変更したい。
【再掲】 飛島活力再生推進事業	まちづくり推進課	島民、大学、民間団体、行政が一体となって離島の活力再生に取り組む。	○島民・大学・NPO・県・市が一体となって協議会組織を運営し、島民座談会等を開催しながら、将来の飛島のあるべき姿に向けて、島民主体の事業を展開してきた。移住定住希望者への対応や外部人材の活動サポート、島民意見の集約など、飛島における諸活動のコーディネート役も担っており、「学習交流活動」「課題解決能力の育成」「コミュニティ組織の活性化」の推進・促進手段として、貴重な事業となっている。 ●協議会事業のあり方全般の見直しの時期にきている。
【再掲】 出前講座事業	市長公室	本市の施策や事業・制度のしくみなどを、担当の職員が直接出向き情報提供を行う。	○市民からの申し込みにより講座を開催している。今年度は災害の発生が多かったため、災害に関する申込みが多い。担当者が市民と対話しながら情報提供できる場として効果があると認識している。 ●メニューにない内容での問い合わせや申し込みもあり、担当課で対応可能であれば開催している。また、1度も申し込みがないメニューもあり、年度ごとにメニューの見直しが必要と考える。
みどりのカーテン事業 エコキャンドル作成事業等 (環境対策事業)	環境衛生課	市民、事業者、行政が参加・協力・連携して行う環境にやさしい取り組みを推進する。	○緑のカーテン事業 ゴーヤなどの緑のカーテンは、室内温度の上昇を防ぎ、エアコンなどの使用を控え、エネルギー消費を減らすことにつながる。簡単にできる省エネ・地球温暖化対策として市役所でも取り組んでいる。平成26年度よりゴーヤの種を配布することにしたが、種からの栽培にも少しずつ慣れてきたようである。 ○エコキャンドル作成事業 小学校の高学年を対象に、廃食用油を原料としたエコキャンドルを作成し、リサイクルをはじめとする3Rに関する説明を行うことにより、ゴミの減量化や省エネルギーについて考える契機としている。また、夏至と七夕(クールアースデー)のライトダウンを行う際に、このエコキャンドルを使ってもらうことで、地球温暖化防止を含めた環境教育にもつながっている。 ●配布物や作成方法の変更を実施しながら事業を推進してきたが、マンネリ化してきている。第2次酒田市環境基本計画の目標指標である省エネや節電に常に取り組み世帯割合の増加に向けて、市民の方が身近にできる新たな地球温暖化防止対策を検討する必要がある。
【再掲】 シルバー人材センター補助事業	福祉課	就労を通じ、高齢者の社会参加の機会を確保し、生きがいの充実を図る。	○定年制の延長や廃止など、取り巻く社会情勢の変化のため会員の確保が困難となり会員数の減少とともに受託件数も減少傾向にある。 ●会員数の確保
さかたでアグリ支援事業	農政課	新規就農者の総合的な支援事業として、酒田市での就農を目指す者に対し、「就農希望」、「就農準備」、「就農開始」の各段階に応じた支援を実施し、円滑な就農促進と新規就農者の農業経営の早期確立を図る。	○「就農準備」段階については、農業体験・短期研修希望者と先進的農業経営体とのマッチングにおいて、体験・研修にかかる謝金を研修生受入経営体に支払い、支援を行っている。 ●新しい作物の栽培を希望している方を対象とした体験・研修に対しても支援可能であるため、その周知が必要。
農業者バイオテクノロジー研修会	農政課	実用化されている組織培養について、初歩的な知識・技術を習得することでバイオテクノロジーに関する興味・関心を高める。	近年は研修会としての実績はなく、農業者による苗の培養依頼時、随時指導している現状にある。
応急手当普及啓発活動	消防本部	応急手当の講習(AEDの使用法や心肺蘇生法等)を行いバイスタンダー(救急現場に居合わせた人)の育成を図る。	○事業所、自治会、各種団体及び教育機関への講習実施により、バイスタンダーの育成が図られた。 ●講師が時間外対応であるため、労務管理対策が必要である。器材の老朽化による更新が進んでいない。

② 市民との協働による学習機会の提供

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
【再掲】 市民生涯学習支援事業 生涯学習指導者登録制度 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	市民が企画した持ち込みの講座等の相談に市民生涯学習支援事業を活用。また、講師派遣の要望については、生涯学習指導者登録も参考にしながら個別に相談対応しコーディネートしている。	○市民自らが講座を企画し、講座からサークルが立ち上がるなどの成果がみられた。 ●生涯学習指導者登録について、講師等の相談を受けた場合に指導内容と相談者にニーズが一致しないケースが多く、活用が難しい。
市民会館自主事業	社会教育文化課	市民ボランティアが企画運営し、市民に質の高い舞台芸術文化の提供を行う。	
【再掲】 山形みんな子育て応援団地域連携事業 (少子化対策地域推進事業)	子育て支援課	地域の育児サークル等が行う、地域資源や高齢者の力を活かして子どもや親子に多様な体験を提供するイベントに支援する。	○多くの団体が利用しやすいように、要綱の見直しを行った。 ●地域の子育て応援団の高齢化により、活動継続が困難な団体が出始めている。

③ 男女共同参画社会の実現

項目名	関係課	取組状況	成果(○)と課題(●)
男女共同参画推進事業	地域共生課	ウィズ講座の開催や、男女共同参画に関するパネル展示等により、男女共同参画に関する学びの場を提供する。	○男女共同参画に関する様々なテーマでウィズ講座を開催。6月と11月には国の運動と連動してパネル展示による啓発活動を実施。 ●普段、男女共同参画を意識しない方々に対する啓発が必要。
女性活躍推進事業	地域共生課	女性活躍推進市民フォーラム等の実施により、女性の意識啓発を図る場を提供する。	○新たなチャレンジ支援のために啓発事業を実施している。 ●継続実施することで新たなチャレンジへの機運醸成を図る必要がある。
国際交流まつり in 中町	地域共生課	“国際交流”をテーマとした誰でも参加できるイベントを開催し、異文化に直接ふれる機会を提供する。	○さまざまな国の歌や踊り、料理を通じた交流を実施。 ●継続実施することで在住外国人と市民との交流を深めていく必要がある。
国際理解講座	地域共生課	外国出身者等が講師となり、母国の料理や文化を紹介することにより、多文化理解を深める機会を提供する。	○さまざまな国の文化や料理を紹介するイベントを実施。 ●継続実施することで在住外国人と市民との交流を深め多文化理解を深めていく必要がある。
日本語教室	地域共生課	外国出身者に、生活に必要な日本語を学習する機会を提供する。	○日本語学習支援ボランティアへ業務委託しマンツーマン学習、グループ学習や校外学習等を実施。 ●日本語学習できる機会があることを外国出身者へ広く周知が必要。

IV 地域活動の活性化

1 地域教育力の充実

① 地域の人材の把握

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
地域人材交流講座 生涯学習指導者登録制度 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	学校と連携し、知識、技能を有する地域の人材を活用した学習機会の提供と、指導者登録制度により人材の把握と活用に努める。	○地域人材交流講座は多数の学校で活用され、地域住民が学校活動に参画する機会となっている。 ●生涯学習指導者登録について、講師等の相談を受けた場合に指導内容と相談者にニーズが一致しないケースが多く、活用が難しい。

② 団体の育成

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
【再掲】 生涯学習施設「里仁館」の運営支援	社会教育文化課	各種生涯学習の機会を提供する生涯学習施設「里仁館」の運営支援を行う。	○庄内一円を対象として生涯学習講座を提供する里仁館へ運営支援を行っている。共催で総合文化センターを会場とした講座も実施している。 ●年々予算の確保が厳しい状況となっており、経費節減や効率的な運営等工夫が必要。
【再掲】 生涯学習振興支援事業	社会教育文化課	市内の社会教育関係団体(海洋少年団等)の活動の支援を行う。	○県外・県内合宿や全国大会等の参加をつうじて他県の団体と交流する機会をもつことができた。また、普段も通常訓練のみではなくさまざまな体験・訓練をおこなっている。 ●団員数の確保。指導後継者不足。
市民活動支援事業	まちづくり推進課	公益活動支援センターの運営については、社会福祉協議会(酒田市ボランティアセンター)に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○H30.4.1より酒田市ボランティア・公益活動センターに名称変更し、社会福祉協議会運営の酒田市ボランティアセンターと一体的な運営を行っている。センターでのコーディネーター機能の更なる充実を図りながら、研修内容についても個人から団体へつながる内容のもの等工夫しながら実施してきた。 ●今後は地域や団体のリーダーの育成、小中高生のボランティア教育につながる研修会の充実を図っていく必要がある。

③ 地域生涯学習関連施設の有効活用

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
コミュニティセンターへの貸出文庫	図書館	図書資料の貸出しを行う。	○図書資料の貸出しを行った。 ●貸出文庫の冊数・回数を拡大し、利用者の拡大や貸出冊数の増加を図る。

2 地域コミュニティ活動の活性化

① コミュニティ組織の活性化と育成・強化

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
【再掲】 地域の教育力向上事業	社会教育文化課	地域のひととのふれあいを通じた事業を行い、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図る。	○市街地を除く25コミ振で、ひとづくり・まちづくり総合交付金に加算して実施。社会教育指導員が担当地区を訪問し、必要に応じて助言している。
【再掲】 地域教育力向上スキルアップ講座 コミセン連携事業 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	講座並びに講習会を開催し、地域のリーダーの育成を図る。	○活発に事業に取り組むコミ振や社会教育文化課で実施した事業を紹介し、事業の企画立案の参考にしていただいた。またグループトークを通して他のコミ振と情報交換ができた。 ●参加者の確保
三島交流	とびしま総合センター まちづくり推進課	飛島、粟島、佐渡島の島民の交流活動を通じたコミュニティ活動の活性化を図る。	○毎年1回、各島持ち回りで交流事業を継続している。各島の人々との交流や課題や資源を学ぶことで、コミュニティ活動の活性化につながっている。 ●コミ振会長の旅費について、従来は社会教育予算で対応(囑託出張)していたが、ひとまち交付金制度の開始により、H30よりコミ振独自の支出に切り替え。 ●飛島における宿泊機能の低下により島内での事業実施が難しい状況となっている。
飛島活力再生推進事業(再掲)	まちづくり推進課	島民、大学、民間団体、行政が一体となって離島の活力再生に取り組む。	○島民・大学・NPO・県・市が一体となって協議会組織を運営し、島民座談会等を開催しながら、将来の飛島のあるべき姿に向けて、島民主体の事業を展開してきた。移住定住希望者への対応や外部人材の活動サポート、島民意見の集約など、飛島における諸活動のコーディネーター役も担っており、「学習交流活動」「課題解決能力の育成」「コミュニティ組織の活性化」の推進・促進手段として、貴重な事業となっている。 ●協議会事業のあり方全般の見直しの時期にきている。
コミュニティ振興事業(再掲)	まちづくり推進課	コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等の活動に対する支援を行う。	○コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に対する活動の支援を行う。 ●地域活動への参加を促進し、地域づくりを担う人材の育成が必要である。
各地区のスポーツ推進委員会を中心に、地区住民の健康・体力づくり等の事業の企画・運営を行う。	スポーツ振興課	各地区のスポーツ推進委員会を中心に、地区住民の健康・体力づくり等の事業の企画・運営を行う。	○地区によっては各種教室等を開催している。 ●各地区の推進員により、積極性の濃淡があり、底上げが必要となっている。
地域高齢者支え合い事業(再掲)	福祉課	自治会が行っている介護予防事業・居場所づくり事業に対し補助金を交付し、高齢者の心身機能の維持向上を図る。	○H30より介護保険課のしゃんしゃん元気づくり事業に移行。現在は事業の経過措置分として補助を実施。H30介護予防11件、居場所づくり22件。
介護予防講座	介護保険課	介護予防講座を各地域の運営委員が企画、実施し、地域で高齢者を支える体制づくりを行う。	○介護予防の普及啓発は一定程度達成したものと思われる、平成29年度をもって事業廃止。 ●住民が身近な場所で、介護予防の実践と継続を目標に実施する事業に移行。
冬の悠々の杜トレッキング&温泉ツアー	平田総合支所建設産業課	悠々の杜周辺をトレッキングした後、アイアイひらたで昼食と入浴。	
大沢地区地域づくりモデル事業	八幡総合支所地域振興課	集落調査、住民ワークショップを通して地域課題の解決に向けた取り組みやジオパークに関連する事業の展開を図る。	○地域運営組織づくりに向けてワークショップの開催や、ジオパークに関連した大沢の名勝地調査や親子を対象にした川遊び等を行い、住民が地域を見直す機会にもなっている。 ●効果的な収益事業の立ち上げ
鳥海山飛島ジオパーク特別企画 大沢雪まみれ&スペシャル鍋を楽しむ会	八幡総合支所地域振興課	雪遊びの達人たちと一緒に雪まみれで遊んだ後は、地元食材のスペシャル鍋を食べる。雪の不思議を学ぶミニ講座も開催。	○H30.2月に親子11組を含めた合計54名が参加して実施、雪山での宝探しや、かんじき体験、アイスクリン作り等の後、地域の特産品を用いた具材により会食を行った。アンケートによる参加者の感想も概ね好評だった。 ●次回以降の内容の企画立案
地域おこし協力隊活動推進事業	八幡総合支所 地域振興課	都市に住む若者を受け入れて、日向コミ振活動に参画し、地域協力活動に従事してもらい、地域活性化への貢献を図る。	○大文字まづりや地域住民参加の映画作成等による地域活性化や子育て関連のイベント等を実施、地域づくりに貢献している。 ●隊員の退任後の地域づくりに関連した起業、地域への定住や再就職

② 地域の歴史と文化を学ぶ機会の充実

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
【再掲】 地域の教育力向上事業	社会教育文化課	地域のひとと子どもとのふれあいを通じた事業として地域の旧跡を学んだり、酒田凧づくり、干し柿づくりなどを取り入れ事業実施している。	○市街地を除く25コミ振で、ひとづくり・まちづくり総合交付金に加算して実施。社会教育指導員が担当地区を訪問し、必要に応じて助言している。
さかた歴史街道事業(酒田民俗芸能公演会・黒森歌舞伎酒田公演(再掲)史跡めぐり)	社会教育文化課	地域に伝わる民俗芸能を上演することにより保存と継承の推進を図る。また、歴史と文化にふれる機会として史跡巡りを実施する。	○民俗芸能フェスタでは本市に伝承される民俗芸能のほか、県外から国指定重要無形民俗文化財を招へいし、発表の機会の提供と、市民の方が民俗芸能に触れることができた。 ○黒森歌舞伎は地域や学校と一体となって伝統を継承することができた。 ○史跡巡りは現在実施していない。 ●民俗芸能保存会加盟団体のうち、活動継続が困難な団体が出てきている。 ●黒森歌舞伎ポーランド公演というこれまでにない大規模公演が控えている。

3 公益活動の充実

① 公益活動の推進と支援

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
【再掲】 中高生ボランティア支援事業	社会教育文化課	ボランティア活動とふれあい交流を通して、思いやりの心をはぐくみ、異年齢間の交流を推進する。	○従来の活動に加え、会員たちの要望をもとにした広くさまざまな活動を行うことができている。サークル同士の交流会も実施している。 ●リーダーの育成。参加メンバーの固定化。
日向ささえあい除雪ボランティア	福祉課	日向地域の住民と一緒に除雪活動の協力をを行う。	○年々地域外からの参加者が増え、除雪を通して地域住民とボランティアとの地域間・多世代間交流が図られた。 ●除雪対象の選定及び関係機関との連携
【再掲】 飛島いきいき体験スクール支援事業	学校教育課	飛島をフィールドにした体験学習を行う。	○飛島の関係施設、旅館等の協力のもと、現地での活動・交流を充実させることができた。 ○実施校からは、島ならではの体験を通して自然のすばらしさや人の温かさに触れる貴重な機会であったとの評価をいただいた。 ○各校でジオガイドを効果的に活用している。 ●ジオパーク構想の全体像の中で、より意図的なジオパークの学習ができるようにしたいと考えている。 ●活動支援ボランティアの確保。
【再掲】 自然体験学習推進事業	学校教育課	鳥海高原家族旅行村を基点とした自然体験学習を行う。	○児童に貴重な自然体験の場を提供する場になっている。ボランティア団体と連携して様々な体験を整備している。児童の安全確保に向けた検閲や整備の継続が必要。
【再掲】 明るく楽しい元気な学校づくり支援事業	学校教育課	地域社会や児童生徒の実態に応じた明るく楽しい元気な学校づくりを支援する。	○学校が独自の視点から、学校裁量により新たな課題に取り組むことのできる事業であった。 ○地域連携・地域学習活動の推進を事業に据えた学校も多くあり、総じて地域と学校との緊密な連携が伺われた。 ●計画に沿った事業執行や適正な事務処理に課題がある学校もあった。
【再掲】 市民活動支援事業	まちづくり推進課	公益活動支援センターの運営については、社会福祉協議会（酒田市ボランティアセンター）に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○H30.4.1より酒田市ボランティア・公益活動センターに名称変更し、社会福祉協議会運営の酒田市ボランティアセンターと一体的な運営を行っている。センターでのコーディネーター機能の更なる充実を図りながら、研修内容についても個人から団体へつながる内容のもの等工夫しながら実施してきた。 ●今後は地域や団体のリーダーの育成、小中高生のボランティア教育につながる研修会の充実を図っていく必要がある。
認知症サポーター養成講座	介護保険課	高齢化によって増加している認知症についての正しい知識を理解し、それぞれの立場で認知症の方をサポートするための講座を開催する。	○各地域で行う事業等で開催協力と、若年層や地域で認知症に関わる人が多い職種へ推進している。 ●認知症サポーターを量的に養成するだけではなく、活動の任意性を維持しながら、認知症サポーターが様々な場面で活躍してもらうこと。 ●教育委員会と連携し、小中学校での講座開催を検討する。
美化サポーター活動 （公園都市構想事業）	土木課 まちづくり推進課	市民等のボランティア活動をとおして、街全体を公園のように「よりきれいに」「より快適に」する。	○登録者は年々増加傾向にあり、花苗等の資材提供が特に好評。 ●登録団体の高齢化により、活動規模の縮小が危ぶまれる。
光ヶ丘公園環境美化活動 森林ボランティア育成事業 （公園都市構想事業）	農林水産課	光ヶ丘公園内の松林及び万里の松原内において、市民等のボランティアによる草刈活動等を行う。	○松林の下草刈等のボランティア活動を行うことにより、市民自らの手で守り育てる意識を高めるとともに、環境美化活動の場になっている。
光ヶ丘公園環境美化活動 森林ボランティア育成事業 （公園都市構想事業）	土木課	光ヶ丘公園内の松林及び万里の松原内において、市民等のボランティアによる草刈活動等を行う。	○毎年多くの市民の皆様に参加いただいております。市の貴重な財産を来世に残そうという意識が年々高められている。 ●特になし
山をきれいにしてウォーキング （森林ボランティア育成事業）	農林水産課	万里の松原内において、市民等のボランティアによる清掃活動等をウォーキングと森林浴を兼ねて行う。	○松林の清掃のボランティア活動を行うことにより、市民自らの手で守り育てる意識を高めるとともに、環境美化活動の場になっている。
砂防林を育てよう （森林ボランティア育成事業）	農林水産課	飯森山西地区の松林において、市民等のボランティアによる下草刈・枝打ち・つる切り活動等を行う。	○松林の下草刈等のボランティア活動を行うことにより、市民自らの手で守り育てる意識を高めるとともに、環境美化活動の場になっている。

② 環境保全活動の推進と支援

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
飛島クリーンアップ作戦	まちづくり推進課	市民ボランティア活動により飛島の海岸のごみの回収を行う。	○NPO法人、東北公益文科大学、行政等が実行委員会を組織し、関係団体、一般公募者及び島民がボランティアで島内の清掃活動（飛島クリーンアップ作戦）を継続しており、飛島の環境保全に寄与している。 ●申込みが多く関心の高い事業だが、定期船の定員から、清掃活動の定員を増やすことができない。後泊を組み込んだツアーを実施するなどの工夫が必要。 ●高齢化により島民の参加が減ってきており、島民のお客様化が進んできている。

猛禽類保護センター利活用事業	環境衛生課	猛禽類保護センターの入館者へ展示物の解説等の実施と鳥海山周辺及び県内における猛禽類等の観察会を実施する。	○夏休みに体験プログラム（エコバッグ作り、蜜ろうそく作り等）や特別企画展示を開催し、子どもから大人まで幅広い層に興味を持ってもらえる企画・運営を行っている。 ○年間約10回の自然観察会を開催しており、自然体験の場を提供し、希少猛禽類や自然の大切さについて普及啓発を行っている。 ○来館者数が年々増加している。（H27→5,934名、H28→6,430名、H29→6,431名） ●自然観察会への参加者はリピーターが多く、新規が少ない。また、参加人数を定めているため、参加希望者全員が参加できていない。 ●猛禽類保護センターに、4名の職員（環境省2名、酒田市委託1名、協議会職員1名）が常駐し、イベント運営を行っているが、規模拡大を行う場合は増員が必要な状況となっている。
公園都市構想事業(美化サポーター活動)	土木課 まちづくり推進課	市民等のボランティア活動をととして、街全体を公園のように「よりきれいに」「より快適に」する。	○市民等のボランティア活動をととして、街全体を公園のように「よりきれいに」「より快適に」する。 ●高齢化等により、活動が困難な団体もある。
【再掲】 光ヶ丘公園環境美化活動 森林ボランティア育成事業 (公園都市構想事業)	土木課 農林水産課	光ヶ丘公園内の松林及び万里の松原内において、市民等のボランティアによる草刈活動等を行う。	○松林の下草刈等のボランティア活動を行うことにより、市民自らの手で守り育てる意識を高めるとともに、環境美化活動の場になっている。
手づくり公園整備事業	土木課	地域にある公園または管理緑地を、地域の特色を生かし、計画から実施まで住民の手づくりで行うことに支援する。	○子どもがのびのびと遊べる環境を整え、青少年の健全な育成や地域コミュニティの形成につながっている。 ●特になし
【再掲】 環境対策事業(みどりのカーテン事業、エコキャンドル作成事業等)	環境衛生課	市民、事業者、行政が参加・協力・連携して行う環境にやさしい取り組みを推進する。	
収益性間伐研修会	農林水産課	荒廃森林の適正管理のため、学習会や現地研修会等を開催する。	○木材価格の低迷により管理が放棄された森林の問題を解消するため、森林経営管理法が成立した。適切に管理できない場合は市町村が森林の経営管理の委託を受けることになる。
【再掲】山をきれいにしてウォーキング (森林ボランティア育成事業)	農林水産課	万里の松原内において、市民等のボランティアによる清掃活動等をウォーキングと森林浴を兼ねて行う。	○松林の清掃のボランティア活動を行うことにより、市民自らの手で守り育てる意識を高めるとともに、環境美化活動の場になっている。
花いっぱい推進事業	各総合支所	地域のボランティア団体等へ種子及び花苗等の配付を行う。	

4 青少年健全育成活動の推進

① 地域で取り組む健全育成

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
【再掲】 生涯学習振興支援事業	社会教育文化課	市内の社会教育関係団体(海洋少年団・青少年を伸ばそう市民会議等)の活動の支援を行う。	○県外・県内合宿や全国大会等の参加をつうじて他県の団体と交流する機会をもつことができた。また、普段も通常訓練のみではなくさまざまな体験・訓練を行っている。 ●団員数の確保。指導後継者不足。
【再掲】 地域の教育力向上事業	社会教育文化課	地域のひととのふれあいを通した事業を行い、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図る。	○市街地を除く25コミ振で、ひとづくり・まちづくり総合交付金に加算して実施。社会教育指導員が担当地区を訪問し、必要に応じて助言している。
青少年指導センター運営活動事業	学校教育課	専門指導員の雇用と青少年の健全育成に係る業務を行う。	○青少年指導センターによる諸活動(街頭巡回指導、相談業務、環境浄化、ネット巡視活動を含む広報活動)及び青少年育成推進員連絡協議会との連携が、青少年の健全育成につながっている。 ●街頭巡回指導の時期や回数、ルート、人数などの見直し

② リーダーや指導者の育成

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
【再掲】 地域教育力向上スキルアップ講座 コミセン連携事業 (生涯学習推進講座開催事業)	社会教育文化課	講座並びに講習会を開催し、地域・少年団体のリーダーの育成を図る。	○活発に事業に取り組むコミ振や社会教育文化課で実施した事業を紹介し、事業の企画立案の参考にしていただいた。またグループトークを通して他のコミ振と情報交換ができた。 ●参加者の確保

③ 地域行事への参加の促進

項目名	関係課	取組状況	現状(○)と課題(●)
【再掲】 地域の教育力向上事業	社会教育文化課	地域のひととのふれあいを通した事業を行い、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図る。	○市街地を除く25コミ振で、ひとづくり・まちづくり総合交付金に加算して実施。社会教育指導員が担当地区を訪問し、必要に応じて助言している。